

●モノグラフ小学生ナウ



子どもと夕食

Vol.2-3

1982.教育図書出版(株)福武書店 教育研究所/加藤智博・賀川雅子
渋谷区立猿楽小学校教諭 土橋稔・東京学芸大学助教授 深谷和子



目次

特集

子どもと食物

調査レポート 子どもと夕食	_____	_____
提言と要約	_____	7
1. 子どもたちの好きなもの・きれいなもの	_____	9
●子どもたちのきれいなおかず	_____	9
●子どもたちの好きなおかず	_____	11
●ファンがいれば必ずアンチ派も	_____	12
●子どもたちの対応	_____	13
●3杯食べる子どもはごくわずか	_____	14
2. 食事のしつけをめぐる	_____	16
●テレビ付きの夕食が子	_____	16
●食卓のしつけのいろいろ	_____	17
3. 夕食のテーブルで	_____	19
●食器の区別	_____	19
●家族の中の父親	_____	21
●外食をよくする家は15%	_____	24
●料理上手なお母さん	_____	26
シリーズ・子ども考現学	_____	27
資料1・調査票見本	_____	32
資料2・学年・性別集計表	_____	38

サンプル数 (人)

学年 \ 性	男子	女子	計
4年	328	297	625
5年	318	303	621
6年	357	343	700
計	1,003	943	1,946

調査概要

対象●大阪府・奈良県・千葉県・東京都の小学4・5・6年生 計1,946名
 時期●昭和56年11月
 方法●学校通しによる質問紙調査

特集 子どもと食物

深谷 和子
(東京学芸大学助教授)



「食べる」という行為は、人間の情緒と非常に深い結びつきがある。試験の前に食欲がなくなったり、心配ごとがあると胸がつかえるような感じがしたり、きれいな相手と同席すると料理の味がさっぱりわからなかったり、という経験は、誰にでもあることだろう。逆に、仕事が終わった後の1杯の味や親しい者同士の食事のおいしさにも思い当たるふしはたくさんある。

一方小さい子どもたちに食事に関する問題が多いことも、専門家の間ではよく知られている。ある調査によると子どもたちの4分の1には、こうした問題があるとも言われる。

たとえば学校でも給食の時間に、偏食の子どもは多いし、また少食な子ども、食欲不振な子ども、食べるスピードの速すぎる子ども遅すぎる子ども、マナーの悪い子どもなど挙げて行くときりがないほどである。

こうした場合に、教師や親として、われわれが、注意したいことは、ただ単に食事の問題行動だけに捉われて、それをなおそうとするのではなくて、その背後にある



子どもの「情緒」の問題を探り、それを解決していこうとすることではなかろうか。たとえば給食が食べられない子ども、食べるスピードの遅い子どもは、たいていの場合、その学級にいまひとつ適応していない、授業が楽しくない、先生になじめない、友だちがいない——といった問題が隠されているものである。

そんな時に、熱心な先生は、全部食べ終わるまで運動場へ出てはいけぬ、とか、立っていなさい、とか、極端な場合には、パンをちぎって口の中へ押しこんでやったりすることもある。現にそうした熱心な給食指導で、登校拒否をおこしかけて、親がクリニックへ駆けこんで来たケースもある。

こうした場合の責任の分担は、多分①子どもの適応を配慮するのが、担任の役割、そして②何でも偏食しないで食べるようにつけるのが、母親の役割、ということなのだろう。ところが最近ではなぜか母親たちが、本来家庭でしつけるべきことまで、学校に頼ろうとするし、先生たちの方もそれを内心は困った母親だとは思いつつながら、



子ども可愛いさのあまり、つい引きうけて
 しまって、パンを口に押しこんだりという
 ことになる。

たとえば子どもの食欲不振の原因につい
 て、オールドリッチ(Aldrich, C.A.)は、次の
 ようにたくさんの原因を挙げている。

A) 子どもの側の原因



- 1) 反抗
- 2) 注意をひく手段
- 3) 何かの欲求をかなえる手段
- 4) 一時的に何か他のことに興味を持っている
- 5) 親やきょうだいの模倣



- 6) 甘やかされている
- 7) 落つきのなさ
- 8) 楽しくないこと
- 9) 白昼夢
- 10) 食べ物の好ききらいがはげしい



B) 親の持っている問題



- 1) 食事やしつけの方法の一貫性のなさ
- 2) 世話のやきすぎ
- 3) とり扱いの不適切さ
- 4) 出まかせ、無方針のしつけ

C) 食事の方法上の問題



- 1) 無理に食べさせようとする
- 2) ガミガミ言う
- 3) 食事に心を使いすぎる
- 4) 食べるとほうびを与える
- 5) 食前または食事中に興奮させる
- 6) 食事中の環境が不快
- 7) ぐずるのを許してしまうこと

つまり、子どもが給食を食べたがらない、という表面上はごくささいに思えることが、実はその奥に、子どもの親子関係や子どもそのものの中に大きな問題がひそんでいることを示す、重大な「信号」であることが、わかってくる。

しかしそれにしても最近の子どもたちが、どうも全体に食欲不振気味なのが、気にかかる。『モノグラフ・小学生ナウ vol.1-9朝食』『vol.2-2給食』『vol.2-3夕食』と、いずれも食事の問題をとり扱って来たのだが、子どもたちは一日のどの時点においても、食物に対するイキイキした関心、といったものを失いつつあるかのように思われる。



昔から「食欲のある病人は死なない」と言われていたという話を古老から聞いたことがあるし、最近ある雑誌のベテラン編集者に会った時「僕はたくさん食べない奴は信用しない。つまり食べない奴に仕事の出来る奴はいない」というコトバを食事の最中に聞いて、とても面白いと思った。食欲のある状態は、よい体調やその背後に健康な生活があることを示すと同時に、対象に対するあくなき好奇心、環境への大きな適応性、といったものがひそんでいるように思われる。そう言えば私自身も、戦後に育った子どものためか、全く偏食はないし、量もよく食べる。そのおかげで、外国でも日本国内でも、見知らぬ土地へ行って野外調査などをする時に、とても助かっている。



言葉の通じない国へ行って、相手に好感を持ってもらったり、信頼してもらったりするには、その土地の食物を、おいしいと言ってどんどん食べて見せることだ。そうすれば、その環境になじもうとする努力を、相手は一度で認めてくれる。

ともあれ今日の子どもの食欲の問題、偏食の問題、また食事マナーの問題にひそむ「信号」を、うまく見分けて、一層の子ども理解のレベルに到達したいものである。



子どもと夕食

渋谷区立猿樂小学校教諭 土橋 稔

東京学芸大学助教授 深谷 和子

食事の風景に接近して見ること——つまり人びとが、いったいどんなマナーで何を食べているのか——は、人間やその集団のあり方に限りない興味や関心を持っている心理学者や社会学者たちにとって、このうえない観察材料のように思われる。

注意深く見ればそこには、あらゆる人びとの生きた姿、つまりパーソナリティーの一部や全部、またその人の生まれや育ち、つまり経済レベルや教育のレベル、生まれ落ちた家庭やその文化、またその人が現在所属している集団の性質やそこでの適応、といったもろもろのことが表現されているはずなのである。

われわれが、子どもと夕食との関係を捉えて見ようとした意図もそこにある。子どもたちの属している“家庭”は、外から眺めて見るだけでも、多種多様な姿を見せ

ているが、一歩中に入って見れば、もっともっと人間くさい営みがある中に展開され、恐らくまた一段と多種多様な姿をしているのではないだろうか。

すでにわれわれは『モノグラフ・小学生ナウVol.1-9』で、子どもと朝食のテーマをとりあげ、主として子どもたちの“食欲”の側面から、その生活の中の問題点を明らかにした。今回のレポートでは、ひきつづき“夕食”に接近してみることで、子どもたちの家庭の、家庭教育を含む文化的側面に探りを入れてみたいと考える。子どもたちの背後にあって、子どもの人格形成に決定的とも言える影響を及ぼすと言われる“家庭”は、今日どんな営まれ方をしているか。その一つの側面を、夕食という“小窓”を通してのぞいてみようとするものである。

提

言

もっと食事マナーの確立を

食事の席は、単に栄養摂取の場としてだけでなく人びとのコミュニケーションやいこいの場として、家庭でも社会でも、大きな役割を果たしている。しかしそのためには、ただよい料理、おいしい料理が提供されているというだけでなく、そこに臨む人びとのマナーが、確立していなければならないだろう。家庭においても、子どもたちの現在はもちろん後日社会人になった時のことも念頭に置いて、もっときちんとした、または場にふさわしいマナーが身につけられるよう、しつけをしていく必要があるだろう。しかし今回の調査で現れてきた夕食の風景からかい間見る限りでは、今日多くの家庭に、品位と安らぎのある食事マナーが確立しているとは、残念ながら言えそうもないようである。

要約

① 1位カレーライス

子どもの好きな料理

- | | |
|-----------|-----------|
| 1位 カレーライス | 6位 さしみ |
| 2位 ハンバーグ | 7位 ステーキ |
| 3位 おすし | 8位 チャーハン |
| 4位 肉 | 9位 魚 |
| 5位 焼肉 | 10位 スパゲティ |

(表2)



② 大好きなおかずでも毎日ではいや!

「どんなに好きな料理でも次の日は別のものにしてほしい」22%

「2~3日なら続いてもよい」は53%

「毎日でもよい」は25%

(図3)



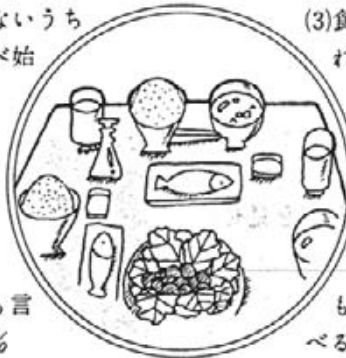
③ 食事のしつけ

(図6・図10)

(1)料理が全員に行きわたらないうちに、自分の分をサッサと食べ始める家庭が51%



(2)「いただきます」をだれも言わずに食べ始める家庭が5%



(3)食事中にトイレに行っても叱られない家庭が31%



(4)父親がいちばんいいお皿(量も多く形よくできた料理)を食べる家庭が61%

④ 晩酌を毎日する父親は28%

全く晩酌をしない父親は20%
父親の晩酌を「別にかまわない」と思う子どもが63%、「飲んだ方がよい」5%、「いやだ」と思う子どもが32%

(図12)



⑤ 料理上手は8割

ぬかみそを漬けている母親は56%(図14)
子どもから料理上手と思われる母親は83%

(図15)



1.子どもたちの好きなもの・きらいなもの



子ども時代に、ものを食べるのが、あんなにも楽しみだったのはなぜだろう。おいしかったもの、好きだったもの、逆にきらいだったもの、まずかったもの——キュンキュンと背骨に抜けるような空腹感、おなかいっぱい食べたときのあの満足感、甘いものを口に入れた時のあの快感——どれもが今なおあざやかな感覚とともによみがえる。

本章では子どもたちのこうした楽しみを、追いかけてみることにしよう。食物の好みは、年齢によって変化されると言われるがそれはまた、時代や地域や時々の流行などにも、大きな関わりをもって現れるとされる。現代の子どもたちは、いったい何を食べたがっているのだろうか。

子どもたちのきらいなおかず

まず表1は、「あなたのきらいなおかず（夕食）は何ですか」とたずねた結果で、頭にパッと浮んだもの（料理でも食品でも）を書かせたものである。（「肉」「ぶた肉」のような記

述の場合は、まとめずに別々に集計した）

上位の10種（ワースト10）には、誰にもおなじみの食品（料理）が並んでいる。昔だったら「ねぎ・にんじん」が筆頭だったのだから、

1. 子どもたちの好きなもの・きらいなもの

「ピーマン」という外国生まれのインベーダーがやって来て、しかも身体にいいというので、しょっちゅう子どもたちを苦しめているらしい様子が見てとれる。面白いのは、10項目中2位の「魚」を除く9項目が野菜またはその

料理であることだ。11位以下の顔ぶれを覗いて見ても、半分近くは野菜類がでてくる。子どもはなぜこんなに野菜を目のかたきにするのだろうか。

表1・子どものきらいな食べもの(ワースト10)

第1位	ピーマン
第2位	魚
第3位	にんじん
第4位	野菜*
第5位	野菜いため
第6位	なっとう
第7位	サラダ
第8位	玉ねぎ
第9位	なす
第10位	しいたけ

*野菜ならたいていきらいの意味だろう。

11位以下

ドマト	グラタン	おでん
ねぎ	焼魚	ぶた汁
うなぎ	セロリ	生野菜(サラダ)
アスパラガス	湯豆 腐豆	かき
キャベツ	煮豆	えび
レバニ	エビフライ	卵
八宝菜	ニラレバいため	お好み焼
パセリ	らっきょう	漬付け物
天ぷら	さしみ	マーボ豆腐
肉	うめぼし	ぶた肉
肉の脂身	大根	貝
グリーンピース	カレーライス	煮魚
ぎょうざ	目玉焼	ほうれん草
酢ぶた	ゆで卵	おひたし
カキフライ	卵焼	きゅうり

子どもたちの好きなおかず

- 表2は「夕食のおかずで1番好きなもの」のリストであるが、いくつかの特徴がある。
- ①きらいなおかずは上位に「料理」でなく単一の食品名(ピーマン、にんじんのよう)がでてきているのに、好きなおかずは圧倒的に「料理」であること。
 - ②調理が簡単で比較的安価な、いわゆるスナック料理の類が上位にきていること(たとえばカレーライス、ハンバーグ、スパゲティなど)
 - ③野菜類がほとんど見られないこと。(これはきらいなものとして野菜が上位に並ぶのとは一致している)
 - ④じっくり煮込んだものより、いため物、揚げものなど、いわゆるフライパン料理が多い

こと。

⑤きらいなおかずのリストにあるものが、同じく好きなおかずのリストにもいくつか顔を出していること。

たとえば「魚」はきらいなおかずの2位だが、好きなおかずでも9位に上がっている。毀誉褒貶あい半ばする、というのは人生の常なのだろう。少し順位は落ちるものの、好きなおかずのリストの上位にある「肉・ぎょうざ・天ぷら・さしみ・カレーライス・サラダ・エビフライ・うなぎ・グラタン」などは、いずれも「きらいなおかず」のリストにも上がっているのである。

表2・子どもの好きな食べもの(ベスト20)

第1位	カレーライス	21位以下	
第2位	ハンバーグ	スー	うどん
第3位	おすし	とんかつ	茶わんむし
第4位	肉	お好み焼	おひたし
第5位	焼肉	オムライス	ごはん
第6位	さしみ	卵	野菜いため
第7位	ステーキ	すき焼き	ハヤシライス
第8位	チャーハン	焼そば	マーボ豆腐
第9位	魚	オムレツ	しゃぶしゃぶ
第10位	スパゲティ	おでん	そば
第11位	ラーメン	カキフライ	目玉焼
第12位	シチュー	天ぷら	たらこ
第13位	ぎょうざ	焼鳥	焼魚
第14位	コロケ	鳥肉	サンドイッチ
第15位	サラダ	冷し中華	
第16位	鳥の唐揚げ	トマト	
第17位	グラタン	どんぶりもの	
第18位	コーンスープ		
第19位	エビフライ		
第20位	うなぎ		

ファンがいれば必ずアンチ派も

こうした点をさらに追ってみたのが図1である。日常われわれの食卓にのぼるおなじみ

の料理30種について、それぞれ「とても好き——わりと好き——あまり好きでない——ぜんぜん好きでない——

図1・子どもの好物

	とても好き				わりと好き		あまり好きでない		ぜんぜん好きでない	
1.ハンバーグ	76.5				18.4		4.4		0.7	
2.おすし	77.3				15.8		5.2		1.7	
3.焼肉	76.0				17.3		5.1		1.6	
4.スパゲティ	70.1				23.6		5.3		1.0	
5.おもち	72.0				20.5		6.1		1.4	
6.ピフテキ	71.2				18.6		8.1		2.1	
7.カレー	68.0				21.4		8.2		2.4	
8.シチュー	65.9				24.3		7.7		2.1	
9.とんかつ	66.0				23.6		8.0		2.4	
10.ギョウザ	65.2				23.9		7.9		3.0	
11.エビフライ	64.8				23.7		8.3		3.2	
12.すき焼き	63.2				24.2		9.6		3.0	
13.グラタン	67.9				17.5		9.4		5.2	
14.みそ汁	58.1				29.6		10.0		2.3	
15.チャーハン	55.7				31.3		10.7		2.3	
16.さしみ	63.7				19.0		9.2		8.1	
17.オムレツ	57.1				27.0		12.2		3.7	
18.てんぷら	50.6				33.0		13.7		2.7	
19.おでん	50.1				31.5		15.9		2.5	
20.シューマイ	44.8				40.9		12.4		1.9	
21.サラダ	52.7				28.0		13.7		5.6	
22.赤飯	46.9				27.1		17.9		8.1	
23.湯豆腐	40.2				31.5		21.3		7.0	
24.焼魚	40.8				32.1		18.8		8.3	
25.ロールキャベツ	42.4				27.3		21.4		8.9	
26.おひたし	29.6				35.7		27.9		6.8	
27.煮魚	28.5				30.5		29.3		11.7	
28.野菜の煮物	29.8				28.2		30.3		11.7	
29.納豆	33.8				26.3		19.8		20.1	
30.カキフライ	33.5				21.2		22.0		23.3	

ぜんぜん好きでない(きらい)」の尺度で答えさせたもので、図は平均値を使って、好かれるものの順に並べておいた。

一見してわかるのは、先にも見たことだが、どの料理にも必ず「大好き」党と「大きい」党とがいることである。これは子どもの好む料理の代表のような「ハンバーグ」も例外ではない。77%の子どもから「とても好かれて」おり「わりと」を含めると95%の子どもから好かれているこのハンサムボーイにも、5%は敵がいるかんじようである。30種類の中ではいちばん僅少だが、0.7%は、このハンサムボーイを「ぜんぜん好きでない」と答えている。そうした評価の分かれ方は、下位ほど激しくなっていく。たとえば30位の「カキフライ」は、34%の子どもが大好き党のメンバーだが、大きい党も23%に達する。同じく29位の「納豆」

は、34%と20%、中年の郷愁をそそる「野菜の煮物」は30%と12%という具合である。

これを見ていると、人生には敵もいるかわり必ず味方もいるものだ、と妙に納得した気分になってくる。「30種類中、カキフライさん、あなたは子どもたちからいちばんきらわれていますよ。」と言われれば、神も仏も見放し給うたか、と絶望的な気分もしてくるが、よくよく見れば、34%の熱烈なファンもいるのである。「わりと」を含めれば、支持者と非支持者の比率は55:45。名うてのハンサムボーイ君の「ハンバーグ」にだって5%の非支持者がいることを考えれば、30番目の位置だって、まんざらではなく、なかなか味のある人生だ、という気持ちがしてくるのである。

子どもたちの対応

さてそうした人生の敵と味方に、子どもたちはどう対応しているのだろうか。

「あなたのきらいなおかずは何ですか」と聞いておいて、「そのきらいなおかずが夕食に出たとき、どうしますか」とたずねてみると子どもたちは、図2のように答えている。

「全部食べる」は4年生で45%だが、学年を追うに従ってその割合は、38%、36%と次第に減っていく。不思議なことに偏食に関しては1年ごとにわがままになっていって、「別のおかずを食べる」者が、14%、17%、21%と増えていく。このあたりのしつけはいったいどうなっているのだろうか。

しかし「きらいなものでも全部食べる」子どもは少しすぎているかもしれないが、「少し残す」子ども、つまり大部分がまんして食べる子どもをあわせると、全体では69%ほどになる。けっこう子どもたちもこの敵に挑戦していると言ってよいのだろう。

さて図3は、逆に大好きなおかずを思い出させて、「その大好きなおかずが毎日続いて

出てきたらどうしますか」と聞いてみた結果である。「好きなものなら毎日でもよい」のか、それとも「どんなに好きなものでも、続いて出てくるのはいや」なのか。

図に示されているように「好きなものなら毎日でも食べたい」者は4人に1人。つまり「大好き」といっても、それほど熱烈なファンは少ないようなのである。筆者の1人は子ども時代が戦後の食糧難の時代であった。同年代の仲間たちが集まると、子ども時代の思い出に、「バナナを1本丸のまま食べてみたかった」「生卵を1個全部ごはんにかけて食べたかった」（注—他のきょうだいと少しずつ分けて食べるぐらいしか量がなかった）という話がでる。食物に対する渴望、熱望といったものは、もう今の子どもたちには縁のない感覚になってしまったのだろう。「どんなに好きなものでも、2日と続くのはいや。翌日は違ったおかずがよい。」と答える者が、20~25%にも達するのである。

図2・きれいなおかずがでたら

(%)

	全部食べる	少し残す	かなり残す	別のおかずを食べる
4年	44.5	29.4	11.8	14.3
5年	38.4	32.1	12.6	16.9
6年	36.2	28.6	14.1	21.1

図3・大好きなおかずが何日も続いたら

(%)

	毎日でもよい	2~3日ならよい	続くのはいや
4年	23.8	51.6	24.6
5年	26.4	52.9	20.7
6年	25.3	53.5	21.2

3杯食べる子どもはごくわずか

子どもとおかずの関係を見てきたところで、最後に主食についても触れておかなければならないだろう。

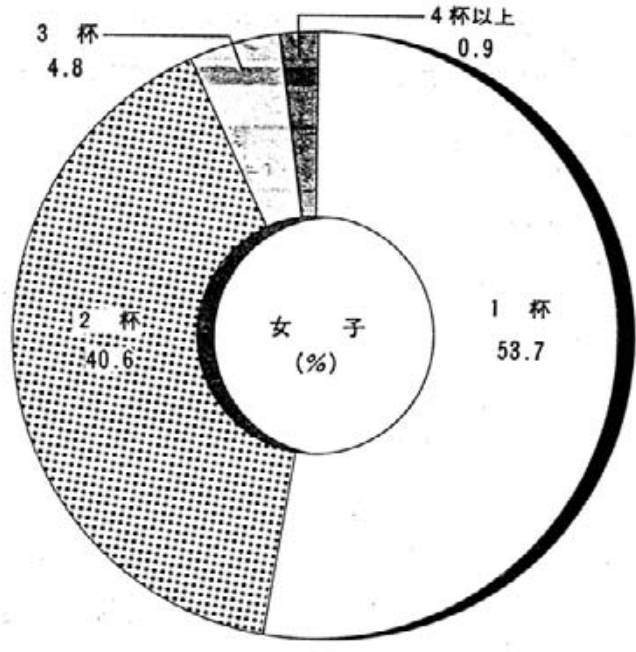
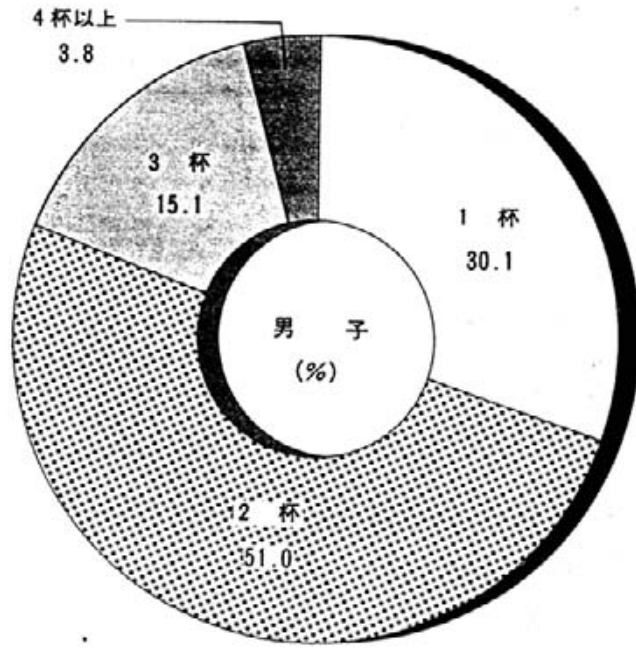
すでに『モノグラフVol.1-9子どもと朝食』で見てきたように、夕食は子どもたちが1日のうちで、いちばん食欲を感じ、張り切って食卓につく時間でもある。また朝食がパンを主体とするスナック、といった内容のものになってきているのに対して、夕食はいちばん「ごはん」とおいしいおかずが期待されていることも見て来た。

おいしいおかずを楽しみながら、1日中で

いちばん多量に食べられている夕食のごはん。その量はどのぐらいなのだろう。それが意外に少ないのである。図4に見い出されるように、男子も女子も1.2杯。3杯以上の子どもは男子で19%、女子で6%しかいない。昔で言えば、食べ盛りの時期なのに、これではお米屋さんが困って、キャンペーンを張りたくなるのもわかる気がする。

さて子どもたちと夕食の内容との関わりを明らかにしたところで、次は食事のしつけのテーマにふみこんでみることにしよう。

図4・ごはんを何杯食べるか



2. 食事のしつけをめぐる

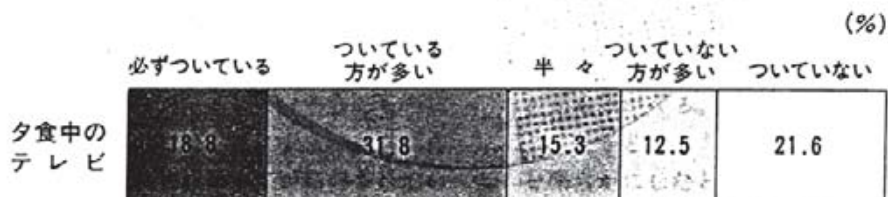


テレビ付きの夕食が $\frac{2}{3}$

子どもの家庭教育は、子どもの生活のあらゆる場面で行われるものだが、食卓のマナーのしつけは、中でも重要なものの一つであろう。最近の親たちのしつけのあり方については、とかく指摘がされているが、その一つの側面を探ってみることにしよう。

まず図5は食事時のテレビ視聴の習慣で、「テレビがついていない」22%、「ついていない方が多い」13%と、テレビのない夕食は寺弱で、多くの家庭はやはりテレビをおかずの一部に夕食をとっている様子が見い出される。

図5・夕食とテレビ視聴



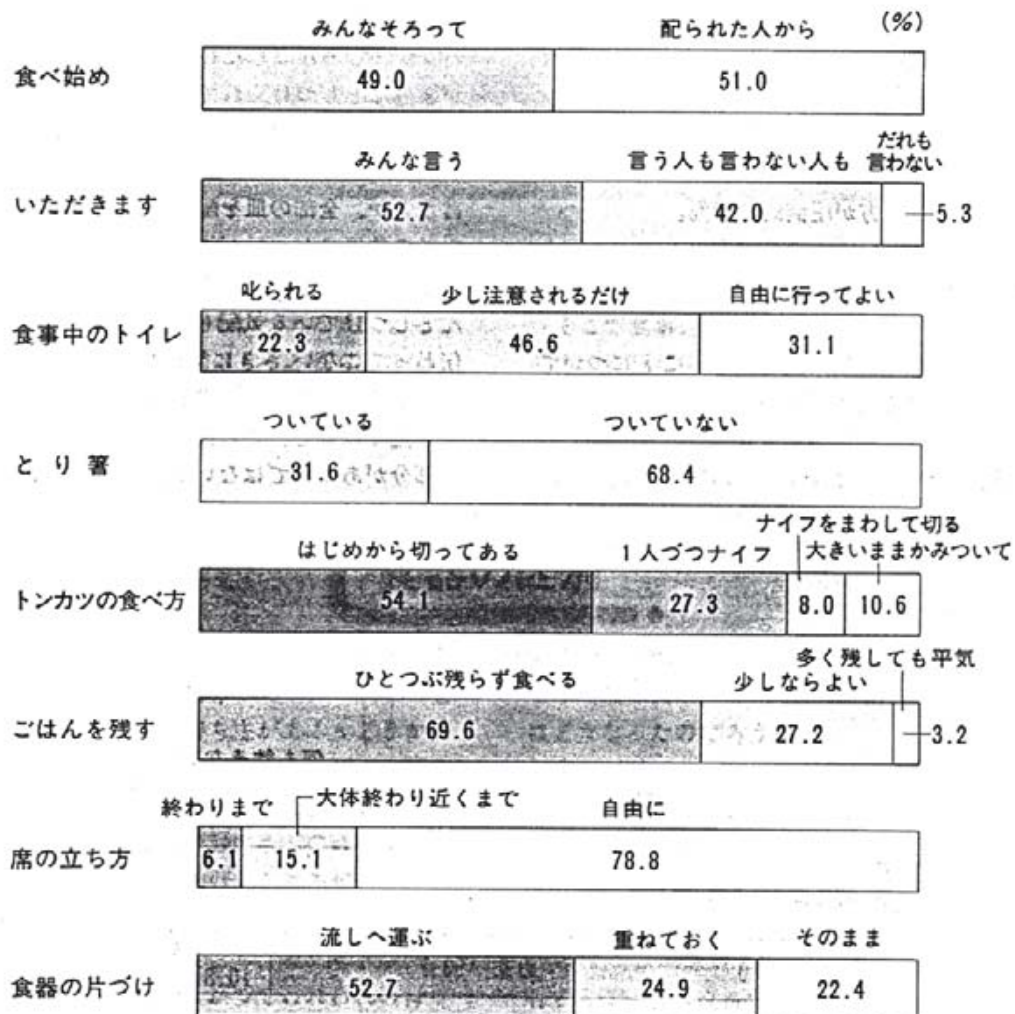
食卓のしつけのいろいろ

次に図6は、細かいしつけの様子である。ここに挙げた8項目は、かつての日本では、子どもたちが小さい時から、食事の度に厳しくしつけられた項目である。

若い世代の読者のためになぞってみると自分の前に料理が配られても、最後の人に配り終わるまでは、絶対に箸をとることを許されず、全員で「いただきます」と声を出してか

ら食べ始める。食事中トイレに立つことは行儀が悪いとひどく叱られたし、漬け物や煮物の鉢は、必ずとり箸がつけられ、「じか箸（自分の箸で直接とる）」はこれまた叱られる対象だった。大きなおかずには、かみついて食べるのではなく、箸で切るかちぎるかして食べる（またはそのように準備して食卓にのせ）、ごはん茶碗の中には、ひとつぶもごはんが残らない

図6・食事のしつけ



2. 食事のしつけをめぐる

ように食べさせられ、自分の食事が終わっても全員が終わって、ごちそうさまを言うまでは立つことを許されず（または親たちから許可された場合に、席を立ててよく）、また食器は子どもたちの場合、流しまで自分の使った分を運ぶのが、普通だった。さてそうしたしつけの内容は、最近どう変わってきているか。

まず「いつ食べ始めるか」について見てみる。みんなそろって食べるのは、49%で、「配られた順」という西洋風が51%。

「いただきます」と言って食べるかについては、昔ながらに「全員が言う」が53%。だれも言わない家庭はわずか5%で思ったより少ない。

「食事途中のトイレ」は、逆に「叱られる」が22%だけ。「自由に行ってよい」というある意味では日本の昔はむしろ、西洋でも通用しそうなしつけをしている家庭が31%もあるのには、合点がいかない。

「とり箸」は、主婦の教養の問題だろうがついていない方が圧倒的で68%。

次いで「トンカツの食べ方」も、大きいままかみついて食べることが許される家庭が11%。

「ごはんの粒を茶碗に残す」ことについては、昔風にひとつぶも残さず食べるように、とのしつけが割と多くて70%。

「食事が終わった後の席の立ち方」は、全員が最後まで座っているマナーはわずか6%、ほぼ終わりまでを含めても21%でしかない。大

部分の家庭では、終われば席を離れることが普通になってきている。このあたりは昔と違うところであろう。

最後に「食器の片づけ」は、流しへ運ぶのが53%、そのままは22%でしかない。「モノグラフ・小学生ナウ vol.1-5 手伝いを考える」でも見たようにこの項目は、比較的実行率が高いのがおもしろい。

これに加えて図7を見よう。食事の終わりにお茶を飲むことも、昔はマナーの1つだったが、この点を見てみると、今でも6割は毎回のよう飲んでおり、それもお茶が圧倒的である。とりわけてこの項目についての意味はないものの、やはり昔からの習慣が受けつがれていることが、わかる数字である。

以上のようなデータは、家庭教育の一つの側面を示すものとして、どう評価されるのだろうか。むしろこれだけでは、食事のマナーがきちんとしつけられているとも、そうでないとも判断できないだろう。ただしこれを見ていて気がかりなのは、「いただきます」を言うとか、全部の皿を配り終えてから食べる、などの昔風のしつけが崩れてきているのは当然としても、それに代る新しいマナーをきちんとしつけている気配も、必ずしも十分には伝わってこない。さきに挙げた食事途中のトイレの問題や、終わった後の席の立ち方などの数字を見てみると、この面でのしつけに欠落した部分があるのではないか、という感じがしてくるのである。

図7・食後の飲みもの



3. 夕食のテーブルで



子どもたちの食卓のしつけが、昔と比べてかなりの変わり方をしつつある気配を見てきたが、こうした変化はもっと暮らしの他の

部分にも、起こってきているに違いない。

そこで食事行動を中心とした人びとの暮らし方の細目に接近してみることにしよう。

食器の区別

欧米の人びとの食卓と私たちのそれとの違いの1つは、食器に持ち主があるかどうか、という点かもしれない。欧米の人びとの暮らしの中では食器は原則としてセットで整えられ、パパのナイフとかお姉さんのスープカップなどという区別がない。ところがわが国では、かなりの食器に個人的な区別がある。箸、茶碗、湯のみ、汁椀等にも、それぞれ持ち主が決まっているのが、かつてわれわれの育った時代であった。しかし食事を含めたすべ

での生活様式が洋風化した現代、このあたりはどうなったのだろうか。

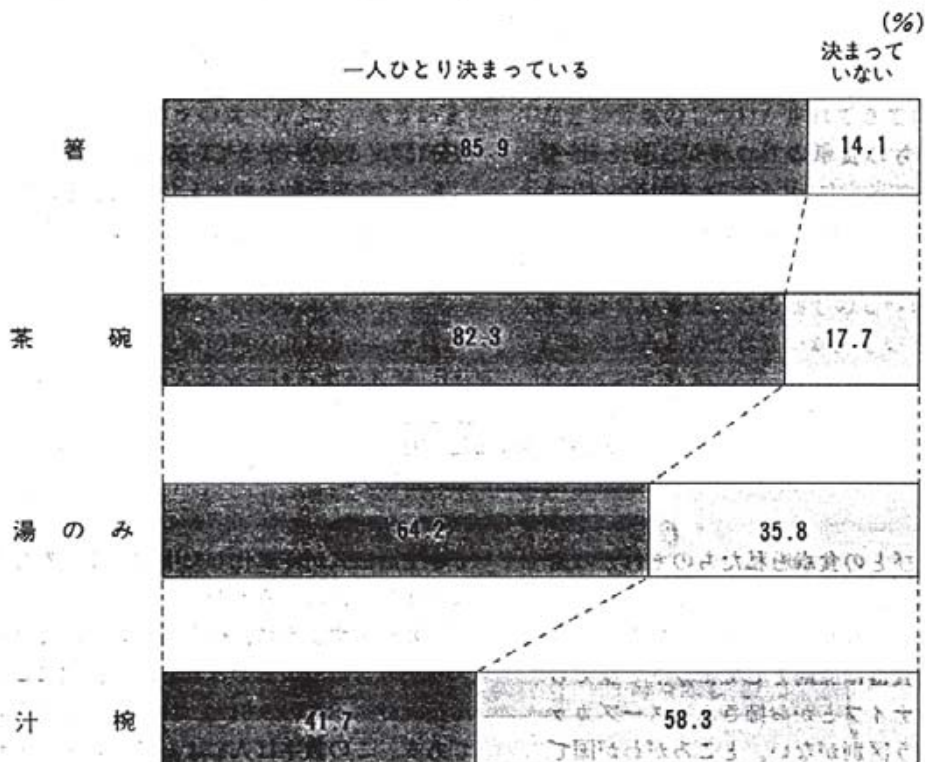
図8が示すように、持ち主がいちばんはっきり決められているのは箸で86%、次にごはん茶碗82%、湯のみ64%、汁椀42%という順である。この数字は人によって受けとめ方が違うだろう。たとえば筆者の1人の場合、自分の家では箸とごはん茶碗だけが、個人所有である。箸は直接口に入るものだし、茶碗はごはんの量に差があって、大食いは大き

3.夕食のテーブルで

い茶碗、太り過ぎを気にしている者はおとなでも子ども茶碗、という理由からの区別である。湯のみや汁椀のように、とくに個人で量を調節する必要のない食器にまで個人所有があるとは、ある意味でいじましい感じを持ってしまう。しかしそれらの人々に聞いて見ると、「気に入った湯のみ、気に入った汁椀を使いたい」という自己主張が見い出されたり、「ずっとそういう習慣なので」という答えが返ってくる。とするとこれはいじましいさの

問題ではなくて、日本人らしい美的感覚の表現なのか、または「個」がなく集団に埋没して暮らすと言われているものの、その底には他人に迷惑をかけない形で自己主張、オーバーに表現するならアイデンティティ確立への欲求が西洋人以上にあるとも言えるのかもしれない。または文化の忠実な守り手の側面が表れている、とも見ることができるのかもしれない。いずれにせよおもしろいテーマである。

図8・食器が決まっているか



家族の中の父親

次に図9は、ごはんをよそう順番で、これはよく社会学者たちが家族構造や伝統的な家族主義、といった側面をみるために使う質問である。「だいたい決まっている」と答えた子どもはわずか33%。号は決まっていないと答えており、最近のんびとの行動的意識的变化に旧世代の人間としては目を見張る思いがする。昔はむしろ母親が最後であり、父親がまっ先であった。やや進歩的といわれる雰囲気のある家庭では、子どもが先だった。いずれにしても順番が決まっていたものである。

しかし図が示すように、順番が決まっている33%の中では、父親からが約半分。「決まっていない」も含めて全体でみると、①父親から16% ②子どもから11%、③その他の人から6%、④順不同67%ということになる。父親の座というものは、最近言われるように、あまり大切にはされなくなってきていると言え

るのだろうか。

この点を見たのが図10である。一番よい料理を食べるのが、必ずしもその家族の中で大切にされている人間とは言い切れないが、しかしこれはある意味で家庭内の地位の一つの側面を表すものでもある。

図に示されるように、「一番大きくてうまくてきた料理」を食べる人は、61%の者から「父親」と答えられているが、その見方には性差がある。女子の方が、「父親」に、と答えている者の割合が多いのはおもしろい。「子ども」は思ったより少なく13%。「その都度希望によって」が25%。少ないが「母親」がとると答えている子どもも3%はいる。

図の下、「一番小さくてくずれた料理」は、「子ども」にとする子どもが38%と第1位なのは面白い。次いで「母親」がさすがに35%。子どもが一番冷遇されていると見ているのは、

図9・ごはんをよそう順番

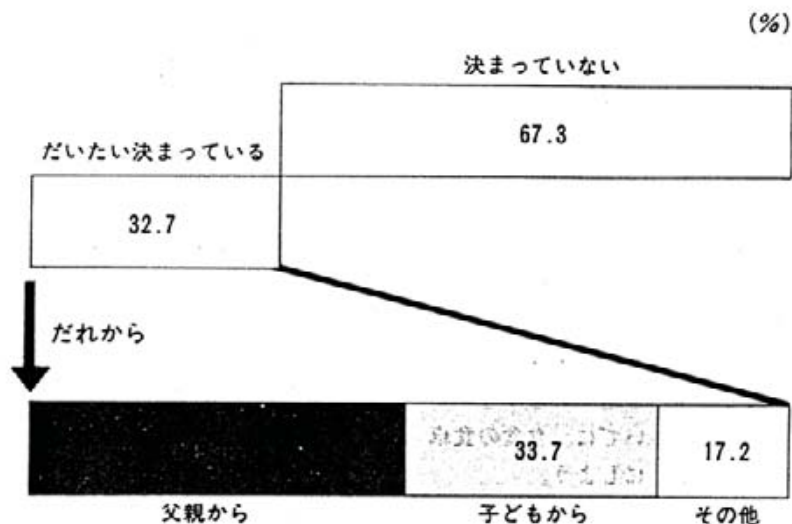
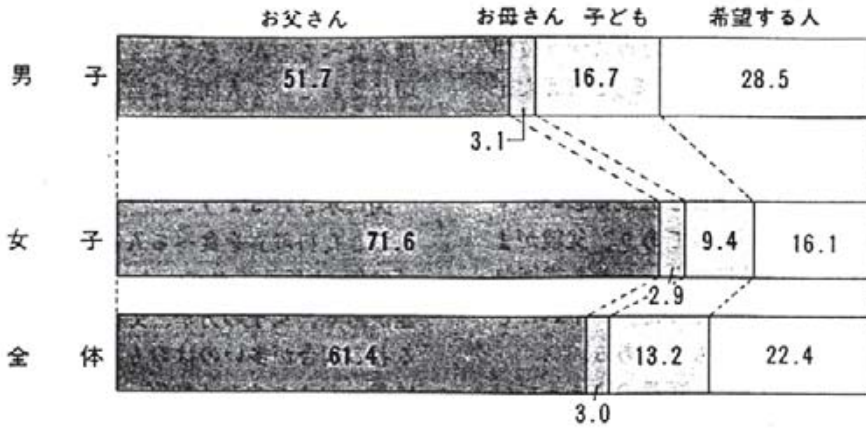
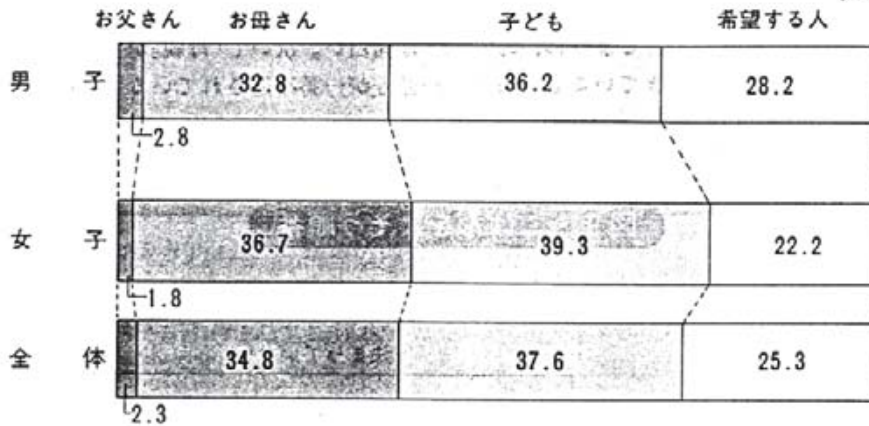


図10・一番よい料理を食べるのは

●一番大きくてうまくてきたのは誰に (%)



●一番小さくてくずれたのは誰に (%)



子どもなりのひがみなのか、それとも実態が「量」を中心に食欲も勘案して合理的に配分されているのだろうか。

さてこのようにわれわれの関心は、どうしても家庭内での父親の影を追うことになってしまっている。そこでついでに、夕食の食卓での父親の姿を追うことにしよう。

図11は、父親がどのぐらい夕食を共にするからである。「毎日いっしょ」が30%、「時々はいっしょでないが、まあいっしょのことが多い」家庭は19%で、あわせても半分ぐらい。たい

い別の36%という数字にも明らかなように、やはり父親はかなり多忙なようである。

さてその貴重な夕食のテーブルで、父親はどうしているのだろうか。図12に見い出されるように、晩酌について見ると、「毎日する」が28%、時々も含めると80%の父親が晩酌の習慣を持っている。しかもそうした父親の姿に子どもたちはかなり好意的で、「少しも含めていやがっている子どもはわずか32%。「飲んだ方がよい」はさすがに5%とわずかなが、6割は「別にかまわない」と評価している。

図11・父親はいつしょに夕食を食べるか

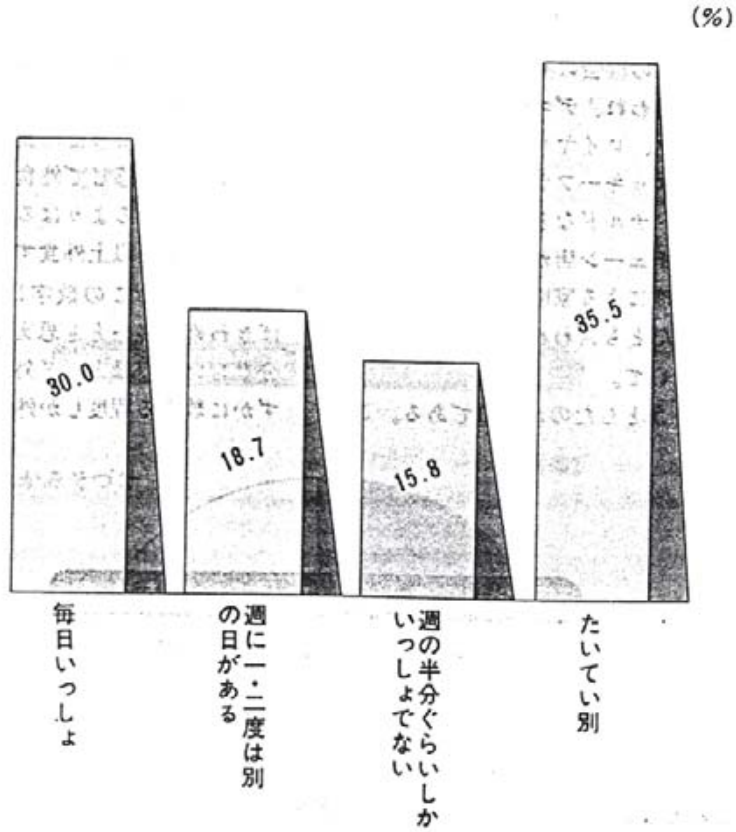
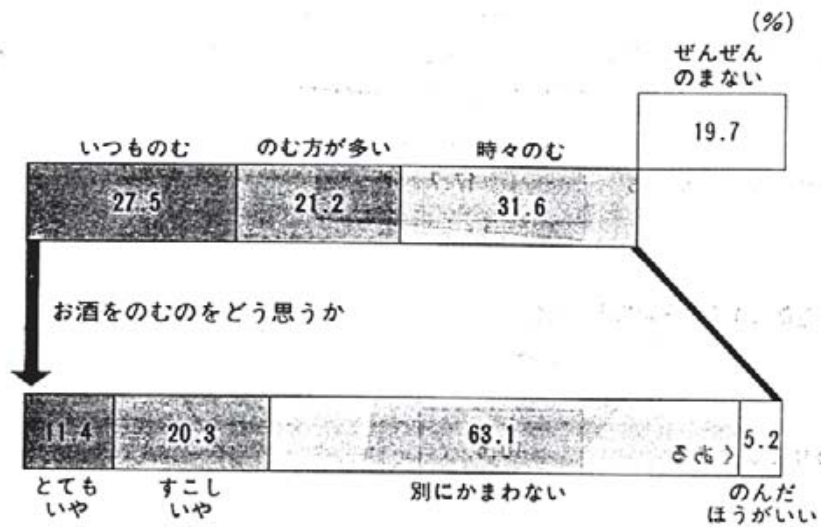


図12・夕食の時父親はお酒を飲むか



i 外食をよくする家は15%

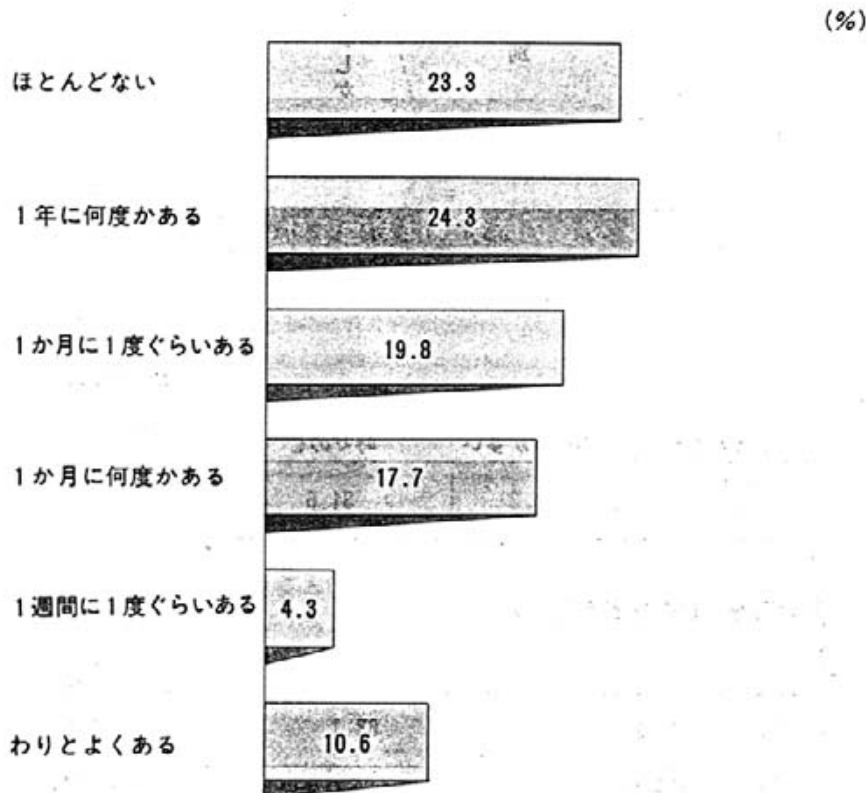
さて最後は外食の機会の有無である。外食産業は花盛りと言われ、デニーズ、ファミール、スカイラーク、ロイヤルホスト、ウッドペッカー、ケンタッキーフライドチキン、ロッテリア、マクドナルドなど、ちょっと数え上げても多様なチェーン店がそこここに進出し、手作りの料理による家庭のだんらんは、少なくなる一方だとも言われる。とくに若い世代の家庭において。

この点を見ようとしたのが図13である。こ

れによると外食の機会は思ったよりはるかに少ない。とくに誕生日だとか、何かのお祝いなどの意味をこめた外食ではなく、茶の間の延長のような感じで外食をする機会は、世間で言われているよりはるかに少ないようである。週に1度以上外食する家庭は15%でしかない。むろんこの数字は、一昔前に比べればきわめて多いとも思える。しかし全体の半分ぐらいは、ほとんど外食しないか1年にわずかに数える程度しか外食の機会を持ってい

図13・レストランなどで食事をする

(何でもない日に家中そろうて)

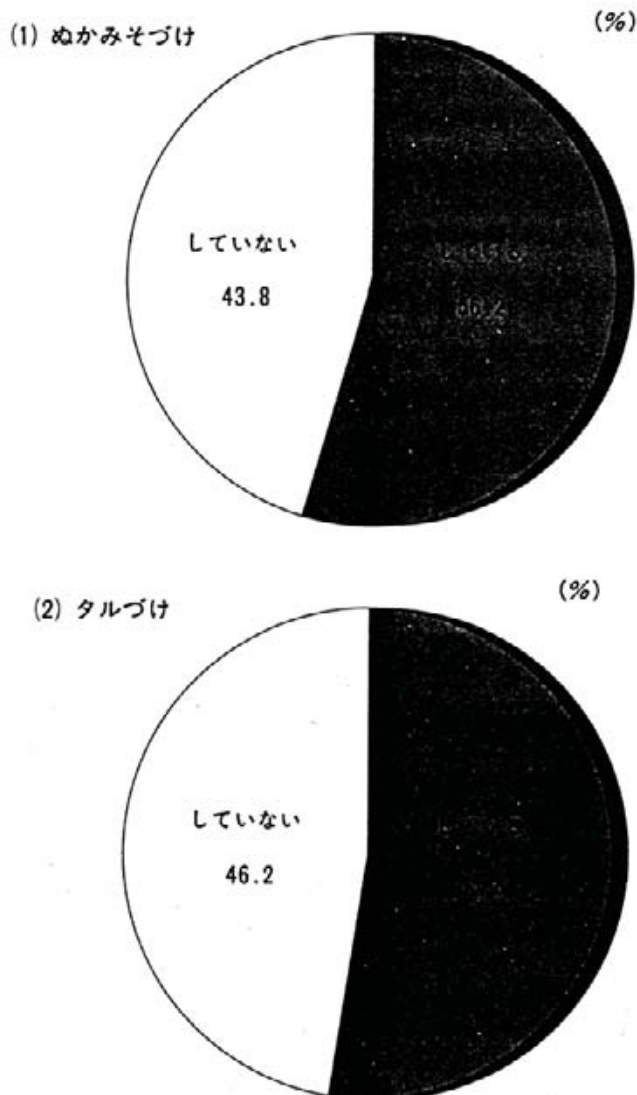


ないのである。

ちなみに図14は、やはりその習慣がなくなってきたといわれる自家製の「漬け物」を例にとって、母親の手作り度を見たものである。世帯持ちのよい主婦のあかしのように言われる「ぬかみそ漬け」であるが、実に56%の家
庭ではそれをしている。まただいこんや白菜のたる漬けは、同じく53%がそれをしてい

と答えられている。これらの数字はなかなかのものであると言えよう。すたれたとは言っても、多くの主婦たちはけっこうまめに食事の準備にはげんでいるのではないか。まだまだわが日本の家庭での暮らしは十分な健康度、安定度を保っているものと言ってよいのかもしれない。

図14・母親が漬け物を自分でつくる



料理上手なお母さん

子どもたちの夕食をいろいろな角度から眺めてきたわけであるが、接近して見れば見るほど、この席は人間的諸要素を含んでおり、家庭生活の中で重要な役割を果たしている場という気がしてくる。その家庭の持っているあらゆる文化的経済的社会的側面の問題点がこの場に形をとって現れているように思う。

そしてこの場の最大の演出家は誰よりも母親であろう。演出家としての母親の役割は、むしろ料理を作る能力にだけ依存するものではないだろうが、逆に料理を作る能力への評価は、他の人間的力量の部分的な、または総合的な評価の反映であるとも言えるかもしれない。そうした意味で最後に図15として、「お母さんの料理の腕前」についての子どもたちの評価を揚げた。

図が示すように、子どもたちは母親の腕前をベタばめしている。全体では実に83%もの子どもがおかあさんは、「まあ」も含めて「料理上手」と答えている。これは大した評価といっ

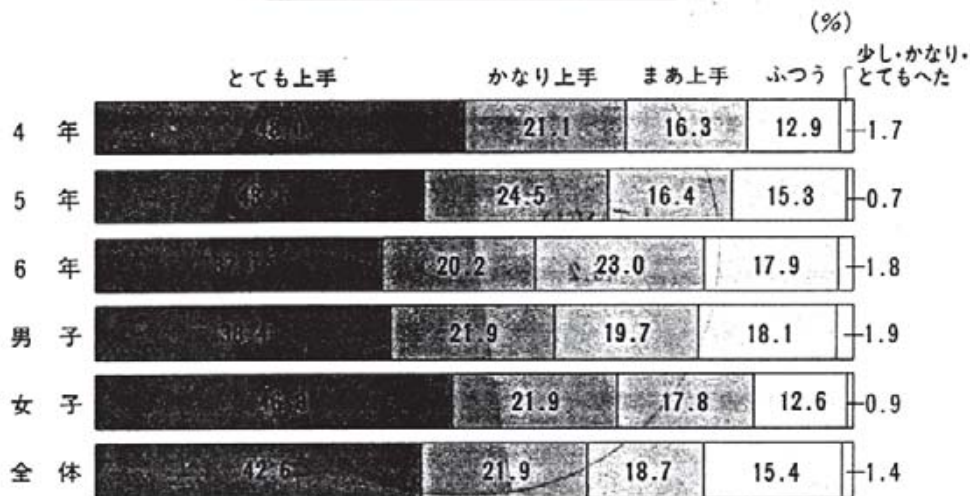
てよいだろう。
しかし図をよく見ると気になる数字もある。学年の推移を見てみると、たとえば「とても

上手」と評価する者の割合は、4年生で48%だが、それが43%、37%と学年の上昇につれて、逆に減っている。子どもが成長するにつれ、母親は絶対者ではなくなり、次第に客観的な目が育ってくる。親という（ある意味では）いごちのよい椅子に座って、子どもと目を見あわせる幸せが次第に許されなくなっていくことを、この図は示している。

また男子と女子では、男子の方がより母親に厳しいのはおもしろい。「とても上手」の評価をする者は、38%、47%と、かなり開いている。父親の場合と違って、とくに外食経験が多いはずもない彼らが、どうして女子とは違った評価を母親にするようになってくるのか、不思議である。

しかしそれでも6年生というかなりむずかしい年齢になっても、80%の子どもが料理上手なおかあさんという評価をしている——このことは、日本の家庭が欧米の家庭に比べるとまだまだうまく運営されており、集団としての安定性を保っており、何よりもそこに暮らす人びとが親も子どもも含めて幸せであることを示す数字なのかもしれないのである。

図15・お母さんは料理上手か



シ(リ)ー(ズ) 子・ど・も・考・現・学
子どもの姿昔と今

第1回・入学式

深谷 昌志
(奈良教育大学教授)

入学式のない学校

パリを訪ねた時、現地の学校に子どもを通わせている商社マンの奥さんたちの話を聞く機会があった。入学の案内ぐらい来ると思っていたのに、何の連絡もない。学校へ行ってみても夏休みとかで、校門は閉まり、用務員の人もいない。ただ、貼り紙に登校日と時刻とが書いてあるだけであった。

入学の日が近づくにつれ、さすが気になってデパートへ行き、クレヨンやらえんぴつ、それに、バッグなどを揃えて、当日を待った。いろいろと考えた末、洋服を新調し、着飾って、校門へ行ってみると、ほとんどのお母さんがふだん着のまま。先生に名前を呼ばれた子どもが校庭の中に入り、お迎えの時刻を知らされて、入学第1日目の朝が終わった。見回してみると、どの子どもも手ぶらで登校しており、めかしこんだ子どもは、ひとりもいなかったという。

小学校入学というと、入学式を連想する。そして、和服姿の母親に手をひかれて登校する服装もピカピカの新入生の姿がうかんでくる。たしかに、昭和56年4月に、小学1年生の母親2千名を対象に実施した調査によると、

1. 入学式の子どもの洋服
 - ① 新調した 67%
 - ② 前から準備してあったもの 31%
 - ③ ふだん着の中のよいもの 2%
2. 母親の服装
 - ① 新調した 42%
 - ② 前から心がけていたもの 46%

③ 持っている中のよいもの 12%の答も得られている。そうした意味では、入学式は、歳時記の中の季語となった感が強い。

しかし、パリに限らず、入学式という慣行を持っていない国が少なくない。アメリカに例をとれば、飯泉美耶子さんの『ニューヨーク郊外の学校で』の中に、「アメリカの学校って、入学式がないのね。祐里をスクールバスに乗せたら、それでおしまいよ。なんだか変な感じ。」という会話がみられる。また、桐島洋子さんは、入学の手続きをした時、校長先生から、「公立ですから、学費も教材費ももちろん一切いりません、お子さんは手ぶらでいらっしやればいいのです。」(『マザーグースと三匹の子豚たち』より)と言われたという。

お祭りさわざやセレモニーのあれだけ好きな国民なのに、どうしたことか、入学式の気配すらない。そうした事情は、イギリスやドイツの学校にも共通しており、手ぶらで、学校へ初めていく日が、入学の日ということになる。

もちろん、だからといって、学校が、子どもたちを放置しているのではない。もう一度冒頭のパリの学校の事例に戻るなら、入学した日から毎日のように、さまざまな連絡事項が伝えられ、クレヨンやえんぴつなどの買い方についての注意事項も、その中に含まれている。

入学式の始まり

それでは、世界でもまれな入学式という慣行が、いつ、どうして、日本の学校に定着したのであろうか。

(静岡市立)『加茂小学校史』の中に、明治21年の新生生の入学月日が書かれている。それによると、3月15日の2名、16日1名、19日1名のように、9月2日までの15回に分けて、20名の子どもたちが入学している。いわば、塾へ入るような感じで、さみだれ式に、子どもが入学してくる。これでは、入学式を挙げるわけにも行かない。

日本の学校、特に、小学校は外から見ると、文明開化の先達という感じが強いが、その実質は、土着の寺子屋的な性格を受けついで成長したと言われる。その寺子屋は、一応、数え6歳の6月6日に入塾すると、けいごとのすじがよくなるという慣習はあったものの、出入りの自由を特色としていた。豊かな家庭ならば和紙、そうでなければ、同僚となる子どもへの菓子などを持って、挨拶をすれば、塾入りとなるのが常であった。

明治時代へ入っても、そうした慣習が続き、学校が曲りなりにも、誰もが入学する所として定着するのは、明治30年代に入ってからである。

初めて学校へ行った日のことは一生の感銘として残るのではと思う。そこで、なん十冊からの自伝にあたってみた。しかし、自伝文学としても定評のある大岡昇平(大正4年、東京府下の渋谷小入学)の『幼年』を見ても、「入学式は母に連れられて行ったに違いないが、その記憶はない」と書かれているにとどまっている。その他の場合も、ほとんどといえるほど記述が認められない。入学式がなかったか、それとも、印象に残らなかったかのいずれかであろう。

そうした中で、入学式についての思い出を書いているいくつかの内容を紹介すると、以下の通りとなる。



「おかつば頭にメリンス友禅の着物、えび茶の袴をはいて、私は意気ようようと、ひとりで校門をくぐった。その頃の下町には、入学式に父母がついてゆくという習慣はまだなかった。」(大正4年に東京府下浅草小学校へ入学した沢村貞子『私の浅草』)

「枕元に袴と着物が揃えてあった。着物は私の入学のために、母が夜なべをかけて縫ってくれた新銘仙の袴である。……入学式に付き添ってくれたのは父であった。身重だった母は、店の前に立って私たちを見送ってくれた。」(大正7年に東京府下大和田小入学、藤田佳世『大正・渋谷道玄坂』)

「母に附添われて小学校の入学式にいった。……入学式は校長の訓辞、君ヶ代の合唱と御真影遙辞、教育勅語を紫のフクサから、うやうやしく取り出して校長が朗読した。」(大正9月に東京府下常盤小入学、北園孝吉『大正・日本橋本町』)

たまたま大正生まれの人の自伝が多いが、明治生まれの人の記憶が不確かという意味ではあるまい。大正へ入ると、御真影遙辞と教育勅語奉読に象徴されるような重々しい感じの入学式が定着したためであろう。

国家行事としての儀式

(長野県)『小布施小学校沿革誌』(明治5年創立)によると、この学校では、明治24年から入学式が始められている。

この明治24年という時期は、教育史的にみて重要な意味を含んでいる。なぜなら、同年6月17日に、文部省は「小学校に於ける祝日大祭日の儀式に関する規程」(省令第4号)を発している。これは、前年に発布された教育勅語や君が代の国歌としての制定(明治21年)、御真影の下賜(明治20年頃から)などの動きを背景として、儀式のパターン化を意図したもので、紀元節、天長節、元始祭などの日には、①御真影へ最敬礼と万歳三唱、②教育勅語奉読と訓話、③儀式に応じた歌の合唱を骨子とした式を挙げるように指示している。さらに、父兄の式列席や子どもたちに茶菓を配るなども奨励されている他、詳細は各府県知事が定めると規定されていた。

文部省会をうけて、各府県では、明治25年前後に儀式の挙げ方についての次第を定めている。一例として、埼玉県「小学校祝日大祭日、儀式ニ関スル次第等」(明治25年1月26日)をあげると、入場の順序を、学校長、教員、生徒、参列員、参観人とする。

「天皇陛下及皇后陛下ノ万ヲ奉祝スルニハ学校長先ツ万ヲ唱へ教員生徒之ニ和スルコト三ツトス」



「敬礼ヲ行フニハ総テ風麗又ハ号令ニ依ルベシ」(『埼玉県教育史』第4巻)。

などが、こと細かく定められている。

また、長野県の「小学校祝日大祭日儀式次第制定につき県令」(県会8号、明治25年2月)では、紀元節などの次第を以下のように定めている。

1 父母などの参観人着席、2 生徒着席、3 学校職員着席、4 御真影奉開、5 一同最敬礼と万歳、6 君が代合唱、7 勅語奉読、8 学校長の演説、9 唱歌(紀元節の歌)の合唱、10 一同最敬礼、11 御真影奉閉、12 一同退席(『長野県教育史』第11巻)

さらに、明治25年3月、県令33号として発せられた千葉県の「小学校祝日大祭日ノ儀式ニ関スル次第等」をみても、今まで紹介した内容と基本的な性格が一致しているが、

「最敬礼ノ式ハ体ノ上部ヲ前ニ傾ケ頭ヲ垂シ手ヲ膝ニ当テ敬意ヲ表スルモノトス」(『千葉県教育百年史』第3巻)

などの規定がみとめられる。

こうした形で、明治20年代後半から、三大節を中心として、学校行事の定式化が進んだのであろう。勅語奉読や君が代合唱、御真影へ敬礼にシンボライズされる重々しい感じの国家主義的な性格の強い儀式である。

明治36年、井上毅文相は、子どもたちの中

に、式典に「厭倦ノ機」がみられるから、儀式は三大節に限定し、三大節はおごそかに行うべきだが、その他の式の扱いは学校の任意にまかせると指示している。実をいうと、今まで触れてきた学校行事の中には、三大節の他に、神嘗祭や新嘗祭、神武天皇祭、孝明天皇祭などが含まれており、儀式が多くなりすぎたことも確かであった。

換言するなら、明治30年代の中頃になると、そうした指示が必要なほど、各学校に儀式が定着していったのであろう。

入学式の場合、国家的な意味合いが薄いだけに、三大節のような形での形式化は進んでいない。しかし、富山県が明治33年に制定した入学式の次第は、

1 教員生徒入場、2 入学生徒、保護者入場
3 学校長入場、4 学校長挙式の辞、5 君が代

誰のための入学式か

今まで触れてきたように、日本の入学式は国家主義的な教育儀式的な基本的な性格を継承して、成立した歴史を持つ。したがって、国家主義的な原理で教育が動いていた第二次大戦まで、さらにいえば、国家主義的な性格が強くなるにつれて、入学式の形態が硬直化し、重々しさを増していったのは当然の帰結と考えられる。しかし、それだけに、そうした東縛から解放された第二次世界大戦後なら、教育の民主化の一環として、入学式の民主化も可能だったのではないか。

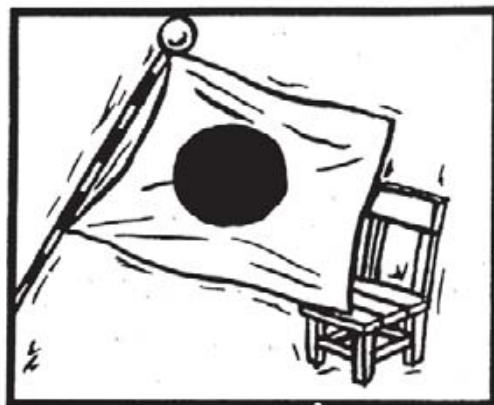
そうした観点から、いくつかの実践記録をひもといてみた。しかし、入学式についての記録は皆無に近いが、それとも、旧態依然たる一といっても、勅語奉読や君が代がないのは、いうまでもないが一ものかのいずれかに限られていた。一例をあげるなら、明石プランで知られる兵庫師範女子部附属小学校の「小学校のコア・カリキュラム」では、入学式の活動として、講堂で式をする、記念写真をと

6 勅語奉載、7 学校長訓辞、8 生徒総代祝辞
9 唱歌、10 閉式の辞、11 学校長退場、12 入学生徒、保護者退場、13 教員生徒退場（山本信良・今野敏彦、『近代教育の天皇制イデオロギー』新泉社所収）の通りである。教育勅語と君が代とが登場するあたりに、入学式が三大節とはほぼ同じ形で形式化されているのがわかる。つまり、学校にとって意義のある行事が、国家的な色彩を帯びた行事に準じた形で浸透し始めている。

もちろん、先に紹介した自伝の回想が示すように、国家的な意味に乏しいだけに、入学式は、三大節のように厳密に施行されることはなかったが、学校ごとに、徐々に、形を整えて、明治30年代後半から大正初めにかけて、定式化されていったと考えられる。

る、先生の顔を憶える、歩き方に注意するなどが挙げられ、入学式を通じて、子どもたちは、「お話を静かに聞く」、「歩き方並び方を憶える」と書かれているにとどまっている。子どもたちの生活に根ざした教育をスローガンにしたコア・カリキュラムも、入学式までは視野に入らなかったであろうか。

しかし、明治以降、国家的な儀式が学校の中で制度化されていったのと対称的に、学校



が、本来、持っていた行事の中で忘れ去られたものも少なくない。たとえば、寺子屋では、書き初めや七夕、天神講、節句などが、単調に流れがちな寺子屋での生活に彩りをそえたといわれる。

アメリカの学校でも、入学式がないのは前述の通りだが、クリスマスやハローウィン、イースターなどの折りには、子どもたちは、なん日もかけて、お祭りの準備をしている。

昭和56年の12月初め、アメリカの西海岸の学校を訪ねた時にも、子どもたちは、あいている時間をみつけては、クリスマス・カードの製作やツリーにつける飾り物の色づけに追われていた。

学校の行事とは、本来、子どもたちの生活に密着したそうした季節ごとの行事やお祭りをとりあげるところに意味があるように思う。

入学式に例をとっても、入学式が誰のためのものなのかが問題になる。明治以降の入学式は、子どもたちを国民の一人として位置づけ、そうした意識を子どもたちに植えつけるのを目的としていた、いわば、国としての必要性から出発した子ども不在の入学式でもある。

したがって、視点を変えて、子どものため、さらに言えば、学校生活のスタートをきる子どもたちを祝ってという意味ならば、形式ばった入学式は不要であろう。子どもたちは、ただでさえ、緊張した気分で登校してくる。そうした子どもを、形式ばった儀式でおどかすのは、教育的に考えても、悪影響を与える以外のなにものでもない。

鳥小の実践で知られる齊藤喜博の『学校づくりの記』には、新入生を主人公にした入学式の詳細が描かれている。全体として、入学を祝う会という感じが強いが、こうした部分に目を配ったあたりに、齊藤喜博の教育実践家としての確かさを感じる。

鳥小ほどでないにせよ、入学式にさまざま



な工夫をこらしている学校は少なくない。入学の日に備えて、秋のうちから、校門から入口まで、球根を植えた学校、あるいは、上級生たちが、学年ごとに、新入生を迎えるための歌を作った学校、そして、同じ地域に住む上級生たちが誘い合って新入生をつれてくる学校などが、その一例である。

しかし、残念ながら、現状では、そうした試みは少数例にとどまっている。つまり、それだけ、子どものためを考えている学校が少ないといえなくもない。

6年間通う小学校生活のスタートの日に、どんなプログラムを用意したらよいか、そうした試みに気を配ることは、授業の改革と同じ程度に、むしろ、それ以上に、大きな意味を持つ。とかく批判の声の多い学校のあり方を考える第一歩として、入学式のあり方を根本から捉え直す必要性が感じられてならない。

● 資料1 調査票見本

おねがい

これはテストではありません。日本の子どもたちに、たくさんおねがいして、その生活をしらべるためのものです。思ったことをそのまま答えてください。

〈やりかたの練習〉

あなたはカレーライスが好きですか？

とても好き かなり好き よつう すこしきらい とてもきらい
 1 ② 3 4 5

あなたがもしカレーライスを「かなり好き」だと思ったら
 上のように番号のところに○でかこんでください。

① まず学年などを書いてください。

- ① 学校の名まえ () 小学校
- ② 学年…………… (4, 5, 6) 年 (○でかこむ)
- ③ 男女…………… (1.男 2.女) (○でかこむ)

〈これからずっと聞いていくのは、あなたの家の「食事」のことです。〉

② 1) あなたが夕食の時、いちばん好きなおかず (チャーハンのような、ごはん物でもよい) は、なんですか。

()

2) では、その大好きなおかずが、何日もつづいて出て来たらどうしますか。

- 1. 何日つづいてもよい (毎日でもたべたい)
- 2. 2, 3日ならよいが、それ以上つづくのはいや
- 3. つづくのはいや (どんなに好きなものでも、1日だけで、よくじつは、ちがったおかずがよい)

3) あなたのきらいなおかずは、何ですか。

()

4) そのきらいなおかずがあなたの家の夕食に出たとき、どうしますか。

- 1. がまんして全部たべる
- 2. すこし残す
- 3. 一口だけたべて、かなり残す
- 4. 別のおかずをたべる (またはたべない)

- 5) ごはんは、ふつう、夕食に平均何ばいくらいたべますか。
1. 1ばいだけ
 2. 2はいぐらい
 3. 3ばいぐらい
 4. 4はい以上
- 6) ごはんを食べ終った時、おちゃわんの中にごはんつぶを残すと、しかられますか。
1. ひとつぶも残らないように食べる
 2. すこしなら残っていても何も言われない
 3. たくさん残っていても、しかられない
- 7) ごはんが終わったら、あなたはお茶をのみますか。
- | | | | |
|--|---|-----------|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 何ものまない 2. とときどき何かのむ 3. たいていのむ | } | 何をのみますか?→ | <ol style="list-style-type: none"> 1. お水 2. お茶 3. 牛乳 4. その他 |
|--|---|-----------|---|
- 8) 「今夜はごちそうだ」(おたんじょう日とか、何かのお祝いとか)という時のおかずは、何がでて来ますか。(いくつでもよい)
-
- 9) お父さんは、夕食の時、いつもいっしょにごはんをたべますか。
(家に帰っていますか)
1. 毎日ほとんどいっしょ
 2. 1週間に1、2度は、別の日があるが、あとはいっしょ
 3. 1週間に半分ぐらいしか、いっしょでない
 4. たいてい別
- 10) お父さんは、夕食の時、お酒やビールをのみますか。
1. いつものむ
 2. のむ日の方が多い
 3. 時々のみ
 4. ぜんぜんのまない
- 11) お父さんが、夕食に、お酒やビールをのむと答えた人へ。
(前の質問で1~3と答えた人へ)(4.の人は次へ)
お父さんが、夕食にお酒やビールをのむのをどう思いますか。
1. とてもいやだ
 2. すこしいやだ
 3. べつにかまわない
 4. のんだ方がいいと思う

● 資料1 調査票見本

- 12) あなたの家で、しょっちゅうでくるおかず（おかあさんが、よく作るおかず）は何ですか。（いくつでもよい）

()

- ③ 1) あなたの家では、ごはんをよそう順番（じゅんばん）がきまっていますか。（お父さんが、いちばん先とか、子どもが先とか）

1. きまっていない
2. だいたいきまっている

（もし、両親と子どもたちだけの時なら）

1. お父さんが先
2. 子どもが先
3. その他

- 2) あなたの家ではテーブルについてから「たべ始め」「たべ終り」をいっしょにしていますか、それともバラバラですか。

（夕食の時、料理がくばられたら）

1. くばられた人から、食べはじめる
2. 全部くばり終ってから、みんなでそろって食べはじめる

- 3) 夕食の時「いただきます」を言いますか。

1. だれも言わない
2. 言う人もあるし、言わない人もある
3. みんなが言う

- 4) 食事の途中でトイレへ行くと、あなたの家では、しかられますか。

1. しかられる（ので、できるだけがまんする）
2. すこし注意されるだけ
3. 自由に行ってよい

- 5) たべ終わったら、席をはなれてよいですか。

1. 全部の人が終るまで、すわっている
2. ほとんどの人が終るまで、すわっている
（1人ぐらいは、まだたべていても、立ってよい）
3. 自分がたべ終わったら、自由に席を立ててよい

- 6) ひとつのお皿に入れたおつけものや、にものなどが、テーブルの真中に出たとき、それをとるおはしはどうしますか。

1. おはしがついているので、それにとる
2. 自分のはしでとる

7) トンカツがでるとき、ナイフやフォークがつかますか。

1. はじめから、切って食べやすいようにしてある
2. 大きのまま、かみついて食べる
3. 1人ひとりナイフがついている
4. ナイフをみんなにまわして切る

8) たべ終わった食器（自分の分）をどうしますか。

1. そのままテーブルにおいておく
2. はこびやすいように重ねておくぐらい
3. 流しへ自分の分だけ持っていく

④ あなたの家では、めいめいの食器がきまっていますか。

1) おはしは

1. 一人ひとり決まったのがある
2. 決っていない

2) おちゃわん（ごはんの）は

1. 一人ひとり決まったのがある
2. 決っていない

3) ゆのみは

1. 決っている
2. 決っていない

4) おわんは

1. 決っている
2. 決っていない

⑤ もし、おかあさんの作ったお肉の料理でいちばん大きくて、うまうまできたお皿と、ちいさくて、形もくずれたお皿があったとします。

1) いちばん大きいのは、だれにあげるでしょう。

1. お父さん
2. お母さん
3. 子ども
4. その時希望する人

2) いちばんちいさいのは、だれがたべるでしょう。

1. お父さん
2. お母さん
3. 子ども
4. その時希望する人

● 資料1 調査票見本

⑥ おたんじょう日やお祝いでないふつうの日に家中外へ行って(レストランなどで)食事をすることがありますか。

1. ほとんどない
2. 1年に何度かある
3. 1ヵ月に1度ぐらいある
4. 1ヵ月に何度かある
5. 1週間に1度ぐらいある
6. わりとよくある

⑦ 夕食の時、テレビはついてますか。

1. 必ずついている
2. ついている方が多い(ついていないこともある)
3. 半々
4. ついていない方が多い
5. ついていない

⑧ あなたのおかあさんは、つけものを、自分でつくることがありますか。

1) ぬかみそづけ(たるの中にぬかみそが入っていて毎日かきまわす)

1. していない
2. している

2) たくあんづけやはくさいづけ(タルにぎっしりつける)

1. 冬にしている
2. しない

⑨ あなたのおかあさんは、料理がじょうずですか。

とても じょうず	かなり じょうず	まあ じょうず	ふつう	すこし へた	かなり へた	とても へた
1	2	3	4	5	6	7

⑩ つぎのおかずをあなたは、どの位好きですか。

- | | | | | |
|---------|-----------|-----------|--------------|---------------|
| | とても
好き | わりと
好き | あまり
好きでない | ぜんぜん
好きでない |
| ① シューマイ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ② おひたし | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ③ なつとう | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ④ エビフライ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑤ てんぷら | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑥ おでん | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑦ にた魚 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ⑧ せきはん | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑨チャーハン	とても すき	わりと すき	あまり すきでない	ぜんぜん すきでない
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑩カレーライス	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑪ピフテキ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑫ハンバーグ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑬シチュー	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑭焼いた魚	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑮スパゲッティ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑯おさしみ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑰みそ汁	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑱焼き肉	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑲ギョウザ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
⑳サラダ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉑ロールキャベツ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉒ゆどうふ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉓すき焼き	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉔かきフライ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉕オムレツ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉖野菜のに物	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉗グラタン	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉘とんかつ	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㉙おもち	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____
㊳おすし	とても	わりと	あまり	ぜんぜん
	1 _____	2 _____	3 _____	4 _____

(これで終わりです。どうもありがとう。)

● 資料2 学年・性別集計表

質問項目	全体	性別		学年別				
		男子	女子	4年	5年	6年		
Q1 サンプル数	4年	625	328	297				
	5年	621	318	303				
	6年	700	357	343				
	男子	1,003						
	女子	943						
Q2 夕飯の風景	好きか ずな	1. 毎日でもよい	25.2	31.9	18.0	23.8	26.4	25.3
		2. 2、3日ならよい	52.6	47.5	58.2	51.6	52.9	53.5
		3. つづくのはいや	22.2	20.6	23.8	24.6	20.7	21.2
	おき か ずな	1. 食部たべる	39.4	41.5	37.3	44.5	38.4	36.2
		2. すこし残す	30.0	27.4	32.5	29.4	32.1	28.6
		3. かなり残す	12.9	11.5	14.4	11.8	12.6	14.1
		4. 別のおかずを食べる	17.7	19.6	15.8	14.3	16.9	21.1
	食 欲	1. 1ばいだけ	41.5	30.1	53.7	41.3	40.9	42.3
		2. 2はい位	46.0	51.0	40.6	46.7	46.7	44.8
		3. 3ばい位	10.1	15.1	4.8	9.3	9.7	11.2
		4. 4はい以上	2.4	3.8	0.9	2.7	2.7	1.7
	残 し 方	1. 残さないようにする	69.6	67.7	71.4	66.2	73.4	69.0
		2. 少しなら残っていても何も言われない	27.2	28.5	25.9	30.6	24.3	26.8
		3. たくさん残してもしかられない	3.2	3.8	2.7	3.2	2.3	4.2
	食 後 の 飲 み 物	1. 何ものまない	2.9	4.0	1.7	1.5	4.7	2.5
		2. とときどきのむ	37.6	36.7	38.5	43.4	36.0	33.9
		3. たいていのむ	59.5	59.3	59.8	55.1	59.3	63.6
		1. 水	27.0	30.6	23.2	29.4	27.8	24.1
	景	2. お茶	53.7	46.8	61.0	49.6	52.0	58.7
		3. 牛乳	10.3	11.3	9.2	12.9	10.3	8.1
4. その他		9.0	11.3	6.6	8.1	9.9	9.1	
父親の晩酌		1. 毎日ほとんどいっしょ	30.0	28.5	31.6	28.1	34.0	28.2
と 晩 酌 を 思 う	2. 1週間に1、2度は別の日がある	18.7	18.4	19.0	18.2	17.4	20.3	
	3. 1週間に半分位しかいっしょでない	15.8	16.0	15.6	15.6	14.7	16.9	
	4. たいてい別	35.5	37.1	33.8	38.1	33.9	34.6	
	1. いつものむ	27.5	28.7	26.3	27.5	26.0	28.9	
順 配 番 の	2. のむ日の方が多い	21.2	21.7	20.5	19.3	25.5	19.0	
	3. 時々む	31.6	30.0	33.3	33.9	30.0	30.9	
	4. ぜんぜんのまない	19.7	19.6	19.9	19.3	18.5	21.2	
	1. とてもいや	11.4	11.1	11.7	13.3	11.3	9.7	
食 事 の し つ け	2. 少しいや	20.3	17.8	23.1	17.2	23.4	20.4	
	3. 別にかまわない	63.1	64.4	61.7	64.5	59.5	65.1	
	4. のんだ方がいい	5.2	6.7	3.5	5.0	5.8	4.8	
Q3 食事のしつけ	順 配 番 の	1. きまっていない	67.3	72.3	62.0	69.4	67.1	65.5
		2. だいたいきまっている	32.7	27.7	38.0	30.6	32.9	34.5
	ま い た だ	1. お父さんが先	49.1	42.9	54.7	40.4	48.0	58.3
		2. 子どもが先	33.7	36.8	30.9	39.0	32.2	30.2
		3. その他	17.2	20.3	14.4	20.6	19.8	11.5
	ト 食 事 中 の	1. くばられた人から食べはじめる	51.0	55.9	45.9	55.8	50.6	47.1
		2. くばり終ってからそろって食べる	49.0	44.1	54.1	44.2	49.4	52.9
	レ の	1. だれも言わない	5.3	8.6	1.8	5.9	2.8	7.0
		2. 言う人と言わない人がある	42.0	44.2	39.7	42.1	42.4	41.5
		3. みんな言う	52.7	47.2	58.5	52.0	54.8	51.5
イ レ の	1. しかられる	22.3	19.7	25.1	18.3	24.7	23.8	
	2. 少し注意されるだけ	46.6	43.4	50.0	42.7	50.1	46.9	
	3. 自由に行ってよい	31.1	36.9	24.9	39.0	25.2	29.3	

● 資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別				
			男 子	女 子	4 年	5 年	6 年		
Q 3	食事のしつけ	食後の方席	1. 全部の人が終わるまですわっている	6.1	4.5	7.8	5.8	5.3	7.0
		2. ほとんどの人が終わるまですわっている	15.1	11.2	19.2	12.2	15.7	17.1	
		3. 自分が食べ終わったら自由に席を立ててよい	78.8	84.3	73.0	82.0	79.0	75.9	
	ばとしり	1. おはしがついているのでそれととる	31.6	29.8	33.4	27.1	30.0	37.0	
		2. 自分のはしでとる	68.4	70.2	66.6	72.9	70.0	63.0	
	トシカツの食べ方	1. はじめから切って食べやすいようにしてある	54.1	51.4	57.0	53.6	56.8	52.2	
		2. 大きいままかみついて食べる	10.6	13.7	7.3	10.9	9.6	11.2	
		3. 1人ひとりナイフがついている	27.3	27.9	26.7	28.3	26.9	26.9	
		4. ナイフをみんなにまわして切る	8.0	7.0	9.0	7.2	6.7	9.7	
	た食器のつけか	1. そのままテーブルにおいておく	22.4	30.5	13.8	26.0	19.0	22.1	
2. はこびやすいように重ねておくぐらい		24.9	25.0	24.7	23.8	24.2	26.4		
3. 流しへ自分の分だけ持っていく		52.7	44.5	61.5	50.2	56.8	51.5		
Q 4	決まった食器	はし	1. 一人ひとり決まったのがある	85.9	82.4	89.6	84.9	85.7	86.8
		2. 決まっていない	14.1	17.6	10.4	15.1	14.3	13.2	
	わちんや	1. 一人ひとり決まったのがある	82.3	77.9	86.9	79.9	84.9	82.1	
	2. 決まっていない	17.7	22.1	13.1	20.1	15.1	17.9		
	酒のみ	1. 決まっている	64.2	57.9	70.9	58.9	66.8	66.5	
		2. 決まっていない	35.8	42.1	29.1	41.1	33.2	33.5	
おわん	1. 決まっている	41.7	39.1	44.4	39.6	41.3	43.8		
	2. 決まっていない	58.3	60.9	55.6	60.4	58.7	56.2		
Q 5	料理の配り方	大きいものは	1. お父さん	61.4	51.7	71.6	65.8	62.4	56.5
			2. お母さん	3.0	3.1	2.9	2.6	3.8	2.7
			3. 子ども	13.2	16.7	9.4	11.5	13.4	14.5
			4. その時希望する人	22.4	28.5	16.1	20.1	20.4	26.3
	小さいものは	1. お父さん	2.3	2.8	1.8	2.4	2.6	1.9	
		2. お母さん	34.8	32.8	36.7	31.0	34.4	38.4	
		3. 子ども	37.6	36.2	39.3	45.9	38.9	29.3	
		4. その時希望する人	25.3	28.2	22.2	20.7	24.1	30.4	
Q 6	外食	1. ほとんどない	23.3	23.5	23.1	29.0	20.7	20.5	
		2. 1年に何度かある	24.3	24.3	24.2	23.2	23.7	25.6	
		3. 1か月に1度くらいある	19.8	20.0	19.6	19.1	20.6	19.8	
		4. 1か月に何度かある	17.7	17.2	18.3	14.3	18.8	19.9	
		5. 1週間に1度くらいある	4.3	3.8	4.9	4.8	5.0	3.3	
		6. わりとよくある	10.6	11.2	9.9	9.6	11.2	10.9	
Q 7	テレビ	1. 必ずついている	18.8	21.2	16.3	21.1	15.1	20.1	
		2. ついている方が多い	31.8	30.0	33.8	28.3	34.9	32.2	
		3. 半々	15.3	15.7	14.8	12.9	16.4	16.4	
		4. ついていない方が多い	12.5	11.8	13.2	16.3	11.5	9.9	
		5. ついていない	21.6	21.3	21.9	21.4	22.1	21.4	
Q 8	つけもの	ぬかみ	1. していない	43.8	45.9	41.5	44.9	43.2	43.3
		2. している	56.2	54.1	58.5	55.1	56.8	56.7	
	づたけ	1. 冬にしている	53.8	51.5	56.3	50.5	54.5	56.2	
		2. しない	46.2	48.5	43.7	49.5	45.5	43.8	
Q 9	母親の料理の腕前	1. とてもじょうず	42.6	38.4	46.8	48.0	43.1	37.1	
		2. かなりじょうず	21.9	21.9	21.9	21.1	24.5	20.2	
		3. まあじょうず	18.7	19.7	17.8	16.3	16.4	23.0	
		4. ふつう	15.4	18.1	12.6	12.9	15.3	17.9	
		5. すこしへた	0.5	0.7	0.3	0.8	0.3	0.4	
		6. かなりへた	0.6	0.8	0.4	0.6	0.2	1.0	
		7. とてもへた	0.3	0.4	0.2	0.3	0.2	0.4	

● 資料2 学年・性別集計表

質問項目	全体	性別		学年別				
		男子	女子	4年	5年	6年		
す ま な い 食 べ 物	シューマイ	1. とても好き	44.8	53.1	36.1	48.0	40.6	45.7
		2. わりと好き	40.9	35.5	46.6	38.4	42.9	41.3
		3. あまり好きでない	12.4	10.0	14.9	11.2	13.9	12.1
		4. ぜんぜん好きでない	1.9	1.4	2.4	2.4	2.6	0.9
	おひたし	1. とても好き	29.6	30.9	28.1	30.6	29.7	28.6
		2. わりと好き	35.7	32.5	39.2	32.8	34.0	39.7
		3. あまり好きでない	27.9	27.3	28.7	27.5	30.0	26.6
		4. ぜんぜん好きでない	6.8	9.3	4.0	9.1	6.3	5.1
	なつとう	1. とても好き	33.8	37.2	29.9	39.7	32.6	29.3
		2. わりと好き	26.3	23.3	29.5	23.1	26.4	29.1
		3. あまり好きでない	19.8	19.7	20.0	19.9	20.9	18.8
		4. ぜんぜん好きでない	20.1	19.8	20.6	17.3	20.1	22.8
	エビフライ	1. とても好き	64.8	67.1	62.2	66.6	61.4	66.2
		2. わりと好き	23.7	21.6	26.0	19.5	27.5	24.1
		3. あまり好きでない	8.3	7.7	9.0	9.5	8.5	7.0
		4. ぜんぜん好きでない	3.2	3.6	2.8	4.4	2.6	2.7
	てんぷら	1. とても好き	50.6	54.5	46.5	51.4	49.7	50.7
		2. わりと好き	33.0	30.4	35.7	30.5	34.4	33.9
		3. あまり好きでない	13.7	12.7	14.8	15.5	13.5	12.4
		4. ぜんぜん好きでない	2.7	2.4	3.0	2.6	2.4	3.0
	おでん	1. とても好き	50.1	55.6	44.1	52.5	49.9	47.8
		2. わりと好き	31.5	28.9	34.3	30.4	29.9	34.1
		3. あまり好きでない	15.9	13.3	18.8	15.0	17.4	15.5
		4. ぜんぜん好きでない	2.5	2.2	2.8	2.1	2.8	2.6
	いた魚	1. とても好き	28.5	32.6	24.2	32.8	29.2	24.1
		2. わりと好き	30.5	30.1	30.9	28.7	28.4	34.0
		3. あまり好きでない	29.3	24.2	34.6	27.2	30.4	30.0
		4. ぜんぜん好きでない	11.7	13.1	10.3	11.3	12.0	11.9
	せきはん	1. とても好き	46.9	50.3	43.3	49.3	47.6	44.2
		2. わりと好き	27.1	26.5	27.7	26.7	25.2	29.1
		3. あまり好きでない	17.9	16.9	19.1	16.6	17.5	19.5
		4. ぜんぜん好きでない	8.1	6.3	9.9	7.4	9.7	7.2
	チャーハン	1. とても好き	55.7	62.0	49.2	59.3	53.7	54.3
		2. わりと好き	31.3	27.1	35.7	28.9	31.0	33.7
		3. あまり好きでない	10.7	8.7	12.8	9.7	12.5	10.0
		4. ぜんぜん好きでない	2.3	2.2	2.3	2.1	2.8	2.0
カレーライス	1. とても好き	68.0	79.3	56.0	73.0	64.9	66.3	
	2. わりと好き	21.4	14.5	28.7	18.6	22.1	23.2	
	3. あまり好きでない	8.2	4.8	11.8	7.1	10.1	7.5	
	4. ぜんぜん好きでない	2.4	1.4	3.5	1.3	2.9	3.0	
ピフテキ	1. とても好き	71.2	78.5	63.4	71.5	70.1	71.9	
	2. わりと好き	18.6	13.8	23.6	17.1	19.0	19.5	
	3. あまり好きでない	8.1	6.0	10.4	9.0	8.6	6.9	
	4. ぜんぜん好きでない	2.1	1.7	2.6	2.4	2.3	1.7	
ハンバーグ	1. とても好き	76.5	81.8	70.8	78.5	75.8	75.3	
	2. わりと好き	18.4	14.8	22.3	15.9	19.0	20.3	
	3. あまり好きでない	4.4	2.9	6.0	5.1	4.4	3.7	
	4. ぜんぜん好きでない	0.7	0.5	0.9	0.5	0.8	0.7	
シチュー	1. とても好き	65.9	68.5	63.4	72.0	62.1	64.1	
	2. わりと好き	24.3	22.1	26.5	19.4	27.0	26.1	
	3. あまり好きでない	7.7	6.9	8.5	6.4	9.3	7.5	
	4. ぜんぜん好きでない	2.1	2.5	1.6	2.2	1.6	2.3	

● 資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	4 年	5 年	6 年	
Q 10 食 べ 物	焼 魚	1. とてもすき	40.8	45.3	36.0	41.7	41.9	39.0
		2. わりとすき	32.1	29.1	35.3	30.9	30.5	34.7
		3. あまりすきでない	18.8	17.4	20.3	18.7	19.9	17.8
		4. ぜんぜんすきでない	8.3	8.2	8.4	8.7	7.7	8.5
	スパ ゲ テ イ	1. とてもすき	70.1	73.3	66.8	75.3	64.9	70.1
		2. わりとすき	23.6	21.8	25.5	19.6	27.4	23.9
		3. あまりすきでない	5.3	4.2	6.4	4.3	5.9	5.6
		4. ぜんぜんすきでない	1.0	0.7	1.3	0.8	1.8	0.4
	お さ し み	1. とてもすき	63.7	67.2	60.1	66.2	62.3	62.7
		2. わりとすき	19.0	17.6	20.4	15.3	20.1	21.3
		3. あまりすきでない	9.2	7.9	10.6	9.3	9.6	8.8
		4. ぜんぜんすきでない	8.1	7.3	8.9	9.2	8.0	7.2
	み そ 汁	1. とてもすき	58.1	62.5	53.5	56.4	60.4	57.7
		2. わりとすき	29.6	27.1	32.3	30.0	27.2	31.4
		3. あまりすきでない	10.0	8.0	12.1	10.9	10.3	8.9
		4. ぜんぜんすきでない	2.3	2.4	2.1	2.7	2.1	2.0
す ま き	1. とてもすき	76.0	82.6	69.0	76.6	75.3	76.1	
	2. わりとすき	17.3	12.9	21.9	16.7	18.1	17.0	
	3. あまりすきでない	5.1	3.2	7.2	5.3	4.6	5.5	
	4. ぜんぜんすきでない	1.6	1.3	1.9	1.4	2.0	1.4	
な な な	1. とてもすき	65.2	73.0	57.1	68.4	63.6	63.7	
	2. わりとすき	23.9	20.3	27.7	20.4	26.1	25.2	
	3. あまりすきでない	7.9	4.7	11.3	8.0	7.2	8.5	
	4. ぜんぜんすきでない	3.0	2.0	3.9	3.2	3.1	2.6	
食 べ 物	1. とてもすき	52.7	48.8	56.8	49.6	51.0	56.8	
	2. わりとすき	28.0	28.2	27.7	29.4	28.6	26.2	
	3. あまりすきでない	13.7	15.3	12.1	14.3	14.5	12.5	
	4. ぜんぜんすきでない	5.6	7.7	3.4	6.7	5.9	4.5	
ベ ン ト ウ 物	1. とてもすき	42.4	42.5	42.2	40.8	43.6	42.7	
	2. わりとすき	27.3	24.7	30.2	27.8	25.3	28.8	
	3. あまりすきでない	21.4	21.9	20.8	21.9	22.0	20.4	
	4. ぜんぜんすきでない	8.9	10.9	6.8	9.5	9.1	8.1	
ゆ ど う ふ	1. とてもすき	40.2	44.2	36.0	44.5	37.7	38.6	
	2. わりとすき	31.5	30.7	32.2	28.6	32.2	33.3	
	3. あまりすきでない	21.3	17.7	25.1	20.6	22.1	21.2	
	4. ぜんぜんすきでない	7.0	7.4	6.7	6.3	8.0	6.9	
す き 焼 き	1. とてもすき	63.2	70.4	55.6	63.5	62.9	63.1	
	2. わりとすき	24.2	19.8	28.8	25.3	23.7	23.6	
	3. あまりすきでない	9.6	6.6	12.8	8.4	10.6	9.8	
	4. ぜんぜんすきでない	3.0	3.2	2.8	2.7	2.8	3.5	
か き フ ラ イ	1. とてもすき	33.5	38.9	27.7	34.4	32.8	33.3	
	2. わりとすき	21.2	19.7	22.7	19.5	23.7	20.4	
	3. あまりすきでない	22.0	19.8	24.4	22.0	22.9	21.3	
	4. ぜんぜんすきでない	23.3	21.6	25.2	24.1	20.6	25.0	
オ ム レ ツ	1. とてもすき	57.1	61.5	52.3	59.7	55.5	56.2	
	2. わりとすき	27.0	24.2	30.0	24.8	27.2	28.7	
	3. あまりすきでない	12.2	10.8	13.7	11.3	13.2	12.1	
	4. ぜんぜんすきでない	3.7	3.5	4.0	4.2	4.1	3.0	
野 菜 の に 物	1. とてもすき	29.8	31.2	28.3	29.2	31.3	28.9	
	2. わりとすき	28.2	27.0	29.4	30.9	25.8	27.9	
	3. あまりすきでない	30.3	29.4	31.4	28.4	30.0	32.5	
	4. ぜんぜんすきでない	11.7	12.4	10.9	11.5	12.9	10.7	

● 資料2 学年・性別集計表

質問項目	全体	性別		学年別				
		男子	女子	4年	5年	6年		
Q 10 す き な 食 べ 物	グラタン	1. とてもすき	67.9	68.3	67.6	71.6	64.8	67.5
		2. わりとすき	17.5	17.0	18.0	16.6	17.8	18.0
		3. あまりすきでない	9.4	9.1	9.6	6.8	11.4	9.9
		4. ぜんぜんすきでない	5.2	5.6	4.8	5.0	6.0	4.6
	とんかつ	1. とてもすき	66.0	75.0	56.5	71.2	62.3	64.6
		2. わりとすき	23.6	18.7	28.7	21.8	25.6	23.4
		3. あまりすきでない	8.0	4.1	12.1	5.4	9.0	9.4
		4. ぜんぜんすきでない	2.4	2.2	2.7	1.6	3.1	2.6
	おもち	1. とてもすき	72.0	76.1	67.5	78.3	69.1	68.7
		2. わりとすき	20.5	18.1	23.1	15.4	22.1	23.7
		3. あまりすきでない	6.1	4.6	7.7	5.0	7.0	6.3
		4. ぜんぜんすきでない	1.4	1.2	1.7	1.3	1.8	1.3
おすし	1. とてもすき	77.3	81.6	73.6	76.0	78.0	78.9	
	2. わりとすき	15.8	12.0	19.1	17.3	14.6	14.5	
	3. あまりすきでない	5.2	5.0	5.4	5.6	5.4	4.7	
	4. ぜんぜんすきでない	1.7	1.4	1.9	1.1	2.0	1.9	

モ

住 所 氏 名 申 込 内 容